小美玉市の歴史を知ろう①

旧百里原海軍飛行場掩体壕群

掩体壕調査風景

　現在の航空自衛隊百里基地がある場所は、戦時中、海軍の航空隊がありました。百里原海軍航空隊の歴史は、昭和13年（1938）、「筑波海軍航空隊百里分遣隊」として始まりました。当時は、飛行練習生の中練教育が行なわれたようです。昭和14年（1939）に独立し、百里原海軍航空隊となっています。

　昭和18年（1943）ころには、艦上爆撃機や艦上攻撃機などの実用機の操縦と偵察員の教育が行なわれるようになったようです。そして、大戦末期のころになると、特攻の訓練が行われるようになりました。

　昭和20年2月ころから、米軍戦闘機による機銃掃射等の攻撃が激化するようになります。グラマンやP51ムスタングなどによる攻撃が百里原にも押し寄せるようになったのです。

　そうした機銃掃射の攻撃から、航空機を守るために掩体壕が作られました。機銃掃射は、真上からの攻撃がないため、まわりに土盛りをしただけの無蓋掩体壕が築かれたようです。これが、百里原にダイヤモンド状に敷設された滑走路の周辺に80基ほど作られました。

　これらの無蓋掩体壕は、その後、多くがなくなりましたが、現在でも10基近くが現存しています。そして、テクノパークの造成や、県道、市道改良工事に伴い、発掘調査が実施されました。昨年度、第12、13号掩体壕の2基が小美玉市教育委員会により発掘調査され、多くの新知見を得ています。

　無蓋掩体壕は2機を収容できるように作られ、他に側溝を伴う誘導路も検出されました。また掩体壕の内部や誘導路には、いくつもの爆撃であいた穴（爆撃痕）があります。米軍の攻撃は、単に機銃掃射だけではなく、爆弾やロケット弾を使用した爆撃も熾烈だったようです。

　12・7㎜機銃弾（日本製のもの）、航空機の部品などが、多く出土しています。米軍の攻撃により破壊され、飛び散った航空機の部品などが、時とともに埋まってしまったのでしょう。戦時中の米軍による攻撃が苛烈を極めたことをまざまざと物語っています。

　ちなみに、これらの出土品は、10月19日（日）まで開催されている参考展示「おみたま、発掘！」で展示されています（小川資料館）。ぜひ、ご覧いただきたいと思います。

爆撃痕

12・7㎜機銃弾

（次回の掲載は10月号です）

【小美玉市教育委員会 生涯学習課 ☎26-9111】

裁判員制度Q&A

　裁判員制度とは、国民の皆さんに裁判員として刑事裁判に参加してもらい、被告人が有罪か無罪か、有罪の場合どのような刑にするのかを裁判官と一緒に決めてもらう制度です。

　裁判員制度は、国民皆さんの積極的な協力をなくしては成り立たない制度です。

　このQ&Aを通して、裁判員制度に理解を深め、刑事裁判に参加することへの負担感や不安感を少しで軽減していただきたいと思います。

Q1　候補者名簿に記載されたら、必ず裁判所に行くことになるのですか?

A1　前号のQ&Aのとおり、裁判員候補者は、実際の事件ごとに裁判員候補者名簿からくじで選ばれます。ですから、裁判員候補者名簿に記載されても、くじで選ばれず、裁判所に来ていただかないこともあります。そして、裁判員候補者名簿は1年ごとに作成されますので、1年間が経過すれば裁判員候補者ではなくなります。ただし、翌年以降の裁判員候補者は、前年に裁判員候補者名簿に記載されたか否かにかかわらず、新たに選挙人名簿からくじで選ばれますので、翌年以降の裁判員候補者名簿に再び記載される可能性もあります。しかし、過去5年以内に裁判員などになった方や、過去1年以内に裁判員候補者として裁判所に来ていただいた方(辞退が認められた方は除く。)などは、裁判員になることを辞退することができます。